尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日　令和３年９月１日
発行者　校長　芝田智昭

No. 363　９月号

今できることを続ける力

長かった夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。始業式で久しぶりに会った子どもたちは、家族と一緒に過ごした楽しい経験を通して、一回り大きく成長したように見えました。先が見えない状況が続いていますが、今学期も感染防止に万全を期しながら教育活動の充実に努めてまいります。

夏休み中、私はオリンピックを連日テレビ観戦したくさんの感動をもらいました。メダル獲得や若い選手の躍動、チーム一丸となって勝利を目指す姿など、本当にスポーツは素晴らしいな、と改めて思いました。また、そうしたアスリートの活躍だけでなく競技や演技の後に選手が語る言葉は心に刺さり、その選手のこれまでの思いや苦労を想像せずにはいられませんでした。

中でも、柔道の大野将平選手が決勝で勝利した直後の言葉は忘れられません。「（オリンピックの開催に）賛否両論あることは理解しています。ですが、我々アスリートの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄に思います。」通常であれば勝負に勝つことに集中して稽古を積み試合に臨むのでしょうが、今回は実施さえも危ぶまれていました。これまでの努力や苦労が無になる可能性もあったわけです。そうした中でも大野選手はオリンピック二連覇を果たすために、強い意志をもち日々自分を追い込み、今できることを続けてきたのでしょう。長い間の目標を達成した直後に、自分のことではなく観戦していた人に向けてメッセージを贈れる人間としての大きさのようなものも感じました。

毎日の授業や行事においては､今後も様々な形で制限が設けられることが予想されます。「◇◇だから、できない。」とあきらめざるを得ないことがあるかもしれません。でも「◇◇だけど、〇〇すればできる。」場面をたくさん工夫し、子どもたちの成長を支援したいと考えています。子どもたちには「オリンピアンのように、今できることに精一杯取り組もう。」との思いを伝えていきます。

結びに、少しうれしくなるエピソード。東京オリンピックに参加したある外国の選手が言っていました。「オリンピックができるなら、それは東京しかないと信じていました。日本の皆さんの努力のおかげで、私たち何千人ものアスリートが夢を見ることができました。」私自身は何をしたわけではありませんが、このように思ってくれる人がいると知っただけで、柔らかな気もちになりました。